

会 議 録

平成 22 年 12 月 27 日調製

審議会等名	平成 22 年度 第 2 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 22 年 12 月 1 日（水） 午後 2 時～午後 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	関委員長 宮島副委員長 小林委員 佐藤委員 豊岡委員 渡邊委員 丸橋委員 名島委員 西潟委員 六原委員 説明のための職員 金子生涯学習課長 長谷川生涯学習課主査 三巻文化振興係 主任 指定管理者 太向館長 高橋総括責任者 瀧澤業務責任者 佐藤副責任者 竹内副 責任者 村山副責任者
協議題	(1) 平成 22 年度上半期の図書館利用状況について (2) 図書館開館 90 周年記念事業の報告 (3) その他
生涯学習課長	あいさつ
関委員長	それでは協議題に入る。(1)平成 22 年度上半期の図書館利用状況について、第 1 回協議会以降特に目立つ点があったら、付け加えてお願いしたい。
館長	資料 No.1、2 に基づき、平成 22 年度上半期の利用状況について説明
関委員長	どこからでもよいので質問やご意見を自由に出していただきたい。登録者数や調べ 学習等が減り気味の傾向にあるという説明だったが、なぜそうなのかという原因や、 こうすればいいのではという案も出てくるかもしれない。
六原委員	栄分館の「すまいるランド」との相乗効果が大きいという話があったが、いつまで もおんぶにだっこというわけにはいけないので、図書館として独自のアピールが欲し い。いろいろなイベントのチラシが配られているが、図書館に来ない人には届かず、 「知らなかった」という方も多いはず。図書館をよく利用し知っている人は来るだろ うが、知らなければ来れない。図書館に来る方だけがお客ではないから、来ない人 にも伝わるような宣伝の方法がないか、考えたい気持ちだ。
館長	ボランティアの皆さんからも、例えばスーパーなどにポスターを貼ってもらっては どうか、といったご意見をいただいたことがある。もちろんこれまでも、学校・公民 館等に掲示や配布をお願いしているが、それ以上の努力が必要なのだろう。ちなみに 10 月に行った角野栄子さんの講演会の来場者の場合、アンケートによれば「広報さ んじょう」を見た方が一番多かった。
六原委員	子どもは親御さんが連れてこない図書館には来れない。学校に貼ってあるポスタ ーを子どもが見ても、「ああ、何かやるんだな」で終わってしまう。だから、親御さ んに届く方法が何かないかと思う。「広報」に出てもお年寄りが見るだけで、若い人 は見ない場合が多いし、まだ子どもが小さいうちは見ても、中学校ぐらいになり少し

	手を離れると、親も仕事が忙しくなって、情報が届いても来れないようだ。図書館に来る方以外にも情報をもっと届くように本気で考えてほしいと思う。
丸橋委員	例えば「三條新聞」の記者は時々来るのか。催しのことなどは伝えているのか。
館長	頻繁に来てくださっている。毎月の行事予定を必ずお渡ししているし、必要に応じてご説明もしている。
関委員長	ただ、市民がすべて「三條新聞」を見るわけではない。六原委員さんの願いはまったくそのとおりだが、難しい問題。市政だよりを見ない人はたくさんいるし、FMで放送してもラジオを聞かなければ届かない。図書館に来る人は意思を持って来るので伝わるだろうが。私は直江町に住んでおり、「直江町だより」という新聞をつくっているが、30パーセントの人が読めばいいと思っている。回覧板を配っても読まないし、小中一貫校の説明会が開かれても20人しか集まらない。そのうち15人は役員で、一番来てほしい小学生のお母さん・お父さんは誰も来ない。あれだけいねいに回覧板をつくり、新聞にも書き、しかも直接配ったのに。だから、まずは意思ある人に来てもらい、少しずつ広げていくしかないと思う。
館長	人が最も集まりやすいところでPRできればよいと思い、先ほどスーパーを例に挙げたが、実際はスーパーもいろいろな人が「貼らせてください」と来るので、それをみんな貼ってあげるわけにはいかないだろう。どこまで理解・協力を得られるかわからないが、トライする必要はあると思っている。ご指摘いただいたように、すでに図書館の活動に関心を持ってくださっている方々に地道に広げていく方法もとりながら、やはり多くの方の目に触れるところで、図書館利用そのものも含めてPRする知恵を絞っていかねばいけない。
関委員長	名島委員さんも、下田分館はさっぱり人が来ないと嘆いていらっしやっしたし、先ほど栄分館の話も出たが、やはり本館が一番人が来ていると思う。私は夏からずいぶん栄分館に通っているが、すまいるランドにたくさん人や車が来ていて、図書館もにぎやかかなと思って入ってみると、2~3人しかいなかったりする。たまに子どもを連れてお母さんが来るが、大人の方はほとんど来ない。おじいちゃん・おばあちゃんでも来てくれればいいのだが、方法はないものか。 ひとつお願いだが、栄分館でパソコンを使っていたら、職員が「1時間、本を写すのならいいですよ」と言って、使用許可書をくれた。「こんなものあったのか」と知ったのだが、写すだけでなく、資料を見ながら自分の文章をつくったり、いろいろあると思うので、1時間とか2時間の電気代を払って使わせてもらえれば、いろんなことができる。そうしたら私は喜んで行くのだが。
丸橋委員	ただ、そうやってまじめにやる人はいいが、ゲームを見ていたりする人もいる。
館長	若干訂正させていただければ、職員が「写すのなら」とご説明したことはないはずで、図書館資料の閲覧に伴うパソコン利用であれば、電気もご利用いただけるようにしている。現状ではとりあえず「1日1回1時間」と区切らせていただいているが。
関委員長	お金を取っていい。タダでというわけには。
館長	資料利用についてはいかなる対価も取れないという法律(図書館法第17条)がある。資料の利用とは関係なく、ご自分の用事で図書館でパソコンを使用したいというのは

	<p>ご勘弁いただいているが、例えば図書館の資料で調べものをしてパソコンでまとめるとか、そういう利用であればお使いくださいとご案内をしている。栄分館はそれほど混まないの他の利用者への影響も小さいと思うが、混む時間とか、本館で長時間パソコンを使われていると、他のご利用者が近くで閲覧しづらいなどの影響が懸念されるので、インターネット利用が45分であることも考慮して、当面1時間以内でお願いすると決めて運用を始めた。</p>
渡邊委員	<p>学校から小学生や中学生の調べ学習での利用を申し込んで来た場合、図書館では子どもたちへの指導を何かしているのか。</p>
村山	<p>学校の方からテーマを示された場合は、それに関係する本を事前に集めておく。「生徒が自分で探したいから必要ない」と言われれば、質問を受けた時にだけ資料案内をしている。</p>
渡邊委員	<p>どこの学校でもインターネットで調べることができると思うが、ITの検索とかに詳しい方が学校にいるとは限らない。詳しい方たちと話し合い、スムーズに調べ学習ができる環境を整えて学校にアプローチすれば、もっと来やすくなるのではないかと。例えばこの部屋を使って、45分とかでなく2時間とかレクチャーしてあげるということもできるのではないかと。思った。</p> <p>もう1点、どうやって広げるかということだが、うちは大学生と中学生がいて、このところ図書館を利用するようになった。どこから来たかという、音楽CD。図書館はCDも貸している、聴くこともできると中学生の子に話したら、じゃあ行ってみようかと自転車で行き、それから本も借りるようになった。入り方はこのようにいろいろあっていいのではないかと。思った。</p>
西潟委員	<p>うちにも大学生と中学生がおり、大学生は図書館というと面倒くさがって来たがらないが、BOOK OFFだとけっこう行っているようだ。本に関連したところなのだから、そういうところにチラシとかポスターとかを頼んでみるといいのではないかと。</p>
宮島副委員長	<p>私はブックスタートにとっても期待している。始まって7年くらいだと思うが、ボランティア活動で小さい子どもさんに会うことも多いし、図書館にいればブックスタートの袋を持っていらしゃる親子がとても目につくので、話しかけやすいし、根付いているなと感じる。現在はとても配布率が高く、すごくいいことだと思う。初めて絵本を手にしたお母さんもあるだろうし、子どもさんに初めて本を読んであげる方がたくさんいる。この取り組みを大事に育ててほしい。ブックスタートを行うのは10ヵ月健康相談だったと思うが、そこで本の読み聞かせをしたり、図書館のカードを作ってあげて、「これを持っていつでも図書館に来てください」とPRできると、来てくださる方がもっと増えるのではないかと。</p>
館長	<p>現状として、特に今年度から、それまで三条会場・栄会場・下田会場3ヵ所で行っていたのが三条会場1ヵ所に統合され、現在はだいぶ落ち着いてきたようだが、半年間は大変だったようだ。そのような状況で、カードをお作りするまではなかなかできていないのが実情。もちろん、図書館の利用案内はしているし、登録申込用紙をお渡しし、余裕があれば書いていただいております。お預かりしてくるとか、できることはやっていきたいと思う。</p>

<p>関委員長</p>	<p>話がいろいろ出た。パソコンの件については、図書館をたくさん利用してもらうために研究してみしてほしい。それから調べ学習の話もあったが、やはり図書館というのは、本を使って物事を調べていくことを教えるのが一番大事なんだろうと思う。よく大学の先生が嘆くが、卒業論文を書かせると、みんなパソコンで調べてつなぎ合わせてくる。いろいろ出てくるからそれをつなぎ合わせて「はい」と持ってくるが、中身について聞くと何もわからない。自分であちこち調べ、この本の次はこの本と調べていくのではなく、パソコンでチャッチャッと出して、うそだか本当だかわからないけれどもくっつけてしまう。もっともらしくできてしまうけど、内容はさっぱり駄目だというのをよく聞く。本当のことを調べていくとなると、やはり本を探っていくと見つからない。そういう一番基本的なところを教えてやってほしいと思う。</p> <p>ほかにあるだろうか。登録者数が少なくなっているという話があり、それは前の月や前年と比べてだろうが、人口と比べてみる必要もあるだろう。人口が減り、子どももどんどん減って、学校も統合しなければと言っているわけだから、人口や生徒の数と比べて多いのか少ないのか、そういうところも統計の基準にして考えてみると、またいい答えが出てくるのではないかと思う。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>あきやただしさんの絵本ライブとか「一日こども図書館員」など、学校にはポスターとか2~30枚のチラシをくれたと思うが、ちょっと足りなかったように思う。家庭数とかで配布することはできないのか。</p>
<p>館長</p>	<p>あきやただしさんの場合は、定員30組という抑えた開催にしたので、そこまではしなかった。すべての児童・生徒に配れるよう準備した事業もこれまでにあるが、相当な量になるので、最近はそこまでやっていない場合のほうが多い。事業にもよると思うが、ご家庭に知っていただく必要がある事業については、検討していきたい。</p>
<p>関委員長</p>	<p>学校の話に関連し、先ほども調べ学習で図書館へ来る学校が減っているという話があった。各校の態勢にもよるわけだが、聞くところによると、小学校は来年度からまた勉強が増え、ますますそういうことができなくなっていくという。今まではゆとり学習のもと、あちこち調べに行ったり体験学習をした。しかし学力が落ちてきたのでまた勉強しろとなり、今やっきになっているようだ。そこいら辺は小林委員さん、事情はどうなのか。授業時間とか内容とか、「そんなことをしている暇はない」という感じなのか。</p>
<p>小林委員</p>	<p>そういうことはない。去年・今年と2年間の移行期間の中で、どこの学校も1時間ほど、余計の授業時数を入れて授業をやっている。来年度になって急に増えることはないし、今年とそう変わらない。</p> <p>図書館を使う、調べ学習という話があったが、忙しいことに追われてばかりではなく、教師がまず「図書館を利用しよう」と言うのが大事だと思う。先般も図書館審議会をやらせていただき、勉強会もやって、その中で図書館の本のことを紹介してもらったところ、先生方も初めてわかって、「図書館の本を貸してほしい」という動きがだんだん出てきている。このように、教師のほうに啓発していくことが大事だと思う。</p> <p>私は裏館小学校だが、4年生の子どもたちが「地域を知ろう」ということで、地域にある三条市役所、図書館、北三条駅などを調べ、ここへも10人の子が来たそうだが、ただ調べるだけでなく、本の利用も含めて来ればいい。先ほど渡邊委員さんが、</p>

	<p>お子さんが CD から入ったとおっしゃったが、私の子どもも自転車で来れる距離にいて、ここで会ったりすると CD は持っているが、本は持っていない。子どもの啓発を待つのではなく、子どもに対する指導をしていかなければいけないと思っている。</p> <p>それから、先ほど栄分館が、すまいるランドとの関係で増えたという話があったが、長岡市などを見ると、あちこち合併したところに図書館があり、例えば寺泊では、釣りとか魚料理の本を特色として、「いっぱい入っていますよ」「こんなことを紹介しますよ」とアピールしている。栃尾なら、「森林・水・山の本がここの売りですよ」というように。だから、何か三条でも、下田の特色として諸橋先生とか、それぞれの地域の特色を出したり、授業ごとに子どもたちにアピールできるようなものを考えて集めていくのも、利用者を増やす一つの方法かと思った。学校でも、どうしたら子どもたちに図書館を使ってもらえるのか、私たちがここを利用するにはどうするか、と考えると、教師も子どもも、私も含めた保護者みんなに使ってもらうためには、何か特色を設けていくのが大きいのかな、教師がまず勉強しなければ駄目だな、と思った。</p>
館長	<p>栄分館はあらためて申すまでもなく、「子育て支援」ということで、子育てをしていらっしゃるお母さんやお父さんにお使いいただける資料に力を入れてスタートしている。また、下田分館は、昔話が非常に豊かな土地柄なので、昔話、伝説、神話といった類いの本を収集し充実させている。語り部やボランティアの方々に「昔話を聞く会」を毎年やっていただいているし、少しずつ皆さんに知っていただけているかなと思うが、それでも子どもたちにとって決してとっつきやすい世界ではないので、それ以外にも特色づけるものを考えていく必要があるかと思う。栄にしても「子育て」だけではもちろんないので、特に若いお父さん、お母さんにニーズがある資料の収集を一生懸やっていくつもりである。</p>
関委員長	<p>小林委員さんは小学校の先生だから、子どもの事情をよく知っていると思う。図書館に来る子どもの数は、市全体のほんの一部分。習い事やいろいろなところに行っていて時間がない。だからいくらチラシを配ったりポスターを貼っても、「来れない」という事情が子ども側にあるので、難儀だと思う。</p> <p>それでは(2)の、「図書館開館 90 周年記念事業」についてお願いしたい。</p>
館長	<p>資料 No.3、4 に基づき、図書館開館 90 周年記念事業の実施結果について説明</p>
関委員長	<p>「魔法はひとつ」の入場者が予想に反して大変少なかった、がっかりしたという話だったが、ヒントになるような意見はないか。230 枚整理券が出たが、実際の来場者は半分弱。お取越の時の東別院の落語会は満杯になったそうだが、本当に難しい。</p>
六原委員	<p>トラウマにならないでいただきたい。</p>
関委員長	<p>いくら素晴らしい講師を呼んでも、それに向き合える聴衆でなければ集まらない。角野栄子さんと言っても、「誰？角野栄子って」という人もいるし、「魔法はひとつ」って何かマジックの話をするの？」という人もいるだろう。何か催し物をするって、ものすごく難しい。今後もまた、懲りないでやってほしい。</p>
名島委員	<p>下田のほうから出ているので、漢学の里分室の数字を見ると、何かいたたまれないような気持ちになる。図書館としてはどのように位置づけて考えているのか。</p>

館長	漢学の里分室については、新刊資料の購入は行っておらず、本館・分館でひと回りした本を毎月かふた月に1回持って行って入れ替えている。分室には職員を置いていないこともあってそれ以上はなかなか難しいのだが、先ほども各館の特色についてご意見をいただいたし、「漢学の里」分室らしく、漢字はもちろん言葉について子どもたちに親しんでもらいやすい本を充実させていく、などのことを考えたい。
丸橋委員	諸橋記念館にある本の中には、本来諸橋先生が寄贈されたものがある...
館長	同居している。
丸橋委員	それで私が心配しているのは、新しい本を買おうと混ざるのではないかと。
館長	記念館資料室としてのもともとの本と、図書館分室の本は、書架が分かれている。
丸橋委員	もう一つは、あそこは記念館なのだから、あそこの中に図書館の分室を置くのは、本来は良くないと思う。下田に分館があるのだし。
生涯学習課長	もともと旧下田村の時、下田公民館の中に図書館が1つあり、記念館にもあったので、それを継承したもの。現在、図書館流通センターに指定管理者として運営をお願いしているのは、本館と栄分館・下田分館だけで、分室はそれぞれ諸橋轍次記念館・嵐南公民館が運営している。ただ、図書の購入は一連のものとして、図書館流通センターが年間2,200万円を充てるという契約で行っている。
関委員長	こうした館の運営は本当に大事。新潟県では諸橋轍次記念館のほか、阿賀市保田に『大日本地名辞書』の吉田東伍記念博物館があり、似ている。
丸橋委員	燕市吉田では、鈴木虎雄先生の記念館をつくるという計画が新聞に出ていた。
生涯学習課長	もう一つ、名島委員さんがおっしゃった漢学の里分室の利用率については、もともと地域の背景人口が少ないので、仕方がないところがある。あそこは昔をたどると旧森町村になるのだろうか、そこに庭月や八木鼻、五百川の集落が非常に散在していて、密集した地域の図書館と比べると、やはり身近ではなく、行きにくいという面がある。したがってそう多くは望めない。その分、自動車文庫で荒沢小学校とか森町小学校に行き、カバーしていると思っている。
名島委員	下田の小学校は図書室がわりあい充実しているので、それを考えると、それほど気落ちすることはない。
生涯学習課長	相対的に考えてもらえると。
関委員長	あることが大切。利用が少なくても、なくさないようお願いしたい。
名島委員	それでも、以前はもう少し親子連れが入っていた。この頃は行ってもほとんど誰にも会わない。
関委員長	だかこそ、荒沢小学校とか森町小学校の図書室に本をたくさん置くように運動していこう。図書館まで出かけるのはなかなか大変。 それでは、(3)「その他」に入る。
館長	12月に開催する催しの予定、提案事業である「図書館を使った調べ学習」や「三条の記憶」の今年度の取り組み経過などについて説明
豊岡委員	孫を連れて平日はよくすまいるランドを利用しているが、以前にお母さん方や子どもたちを不安にさせるような人が、すまいるランドにも栄分館にもよく来ていた。分館の職員はたいてい女性1人だし、早い段階で周囲と連携できているとよいと思う。

館長	<p>栄の場合はすまいるランドの方とご相談し、連携をとっていくことになっている。栄だけでなく本館でも、むしろそういうケースが多いので、11月に行われた新潟県公立図書館長会議で他館の取り組みについて質問し、多くの館から回答・教示をいただいた。三条だけでなくこの館も、同じような悩みを持たれており、研修を受けて対応しているという自治体もあって、大変参考になった。私共としても、ご病気の方であれば気を遣いつつも、他の方のご迷惑になる行動については毅然として対応していく必要があると認識している。</p>
豊岡委員	<p>栄分館の入館者数は入口でカウントしていると思うが、孫が1日に2回も飛んでいくことがあり、数字が多くなっているだけということもある。また、栄は駐車場が広いので、若い人がいっぱい来やすい。そのような心理的な要因もあるし、子どもが行けば親も付いていくわけだから、数字のことはそれほど気にすることはない。</p> <p>今日は本館に来たわけだが、やはり雰囲気は暗い。建物が古いのはもちろんわかるが、もっと若い人が来なくなる何かが欲しいと思う。</p>
館長	<p>入館者数は確かに通行者数のカウントだが、貸出人数や冊数は確実な統計。</p>
豊岡委員	<p>若いお母さんなどは、5~6冊必ず借りていく。一番はやはり駐車場の問題ではないか。いろいろ努力をしても、今は図書館以外に興味のあることがいっぱいある。努力はしながらも、数字的なことはあまり気にしなくてよいと思う。</p>
六原委員	<p>数字だけでないと思う。</p>
豊岡委員	<p>あとは、安全に対する対策をしてもらえれば安心できると思う。お母さん方の間でも相当話題になり、気にしていたので。</p>
生涯学習課長	<p>本館が暗いとおっしゃったが、イメージというか、建物の中の照度が明るくないということか。</p>
豊岡委員	<p>照明もそうだし、全体的に。ここに来るより、栄に行きたいと思ってしまう。</p>
生涯学習課長	<p>私が思うのは、市役所が去年から今年にかけて、非常に傷んで暗い灰色だったのを、白い壁に変えた。それに対してこの図書館は、基本的にモスグリーン。1階もそうで、その色が暗さ・明るさに反映しているのではないかと思う。</p>
六原委員	<p>ここは棚の高さも高い。</p>
館長	<p>地域資料と文庫・新書、小説以外はみな高層書架なので。低層書架の近辺は見通しが利くが。</p>
豊岡委員	<p>あまり高いと圧迫感がある。</p>
館長	<p>ただ、すべて低くすると、収納冊数が大幅に減ってしまう。</p>
関委員長	<p>図書館や市役所ができた当時の設計の問題で、市役所も暗い。</p>
生涯学習課長	<p>それほど暗くない。今度来てみてほしい。</p>
六原委員	<p>90周年では新館はできなかったけど、100周年に向けて新しい図書館はできないだろうか、という話が出た。あと10年あるので、節約をしてというわけではないが、また来なくなるような明るい図書館ができれば、改装でもいいし。</p>
豊岡委員	<p>喫茶店とかも。お茶を飲みがてらちょっと行ってみたいとか、友だちと「じゃあここでお茶を飲んで…」となれると思う。障がい者の方へお任せするのもいいし。市内には今、お茶を飲む場所もなかなかない。</p>

関委員長	やはり思想が変わってきている。図書館に行ってお茶を飲むなんて考えは、以前はなかった。今は社交場であるかのように市民の意識が変わってきている。ヨーロッパの伝統ある図書館は、天井の辺りまでずっと本が入っていて、そこで静かに読んだり研究したりというのが考え方だったから、ここも多分そのようにつくったのだと思う。ところが人間のほうが変わってきてしまって、喫茶店をつくれとか自動販売機を置けという要望が出たり。先日来てここにも自動販売機が置かれてあったので、びっくりしたのだが。
館長	開館した時代には、この色合いがとても明るい色だったのだと思う。そういう、色の価値観も変わってくる。県立図書館では、昨年度から喫茶室がオープンして評判になっている。図書館からは通路を隔ててちょっと離れているが、会議室だった四角い部屋を改造した。
丸橋委員	図書の保存上からはまずい。
館長	かなり離れている。
生涯学習課長	新潟市立中央図書館もロビーに喫茶店がある。
館長	構造を考慮すれば十分可能なのだと思う。県立図書館では、特に若い世代の方がなかなか来ないというということで、図書館の入口の外側のスペースに子育て世代の女性向きの雑誌を出したり、CDを出したりして、効果を生んでいるという。そういう成功例が身近にある。私共も、先ほども申し上げた通り、若干館内のレイアウト変更をした。最初は今よりもっと圧迫感があり、入口を入れてすぐ漫画や雑誌の高い書架があって見通しが利かなかったのだが、模様替えをして幾分見通しが良くなった。それでも、決して暗い色だとは思わないのだが、天井が低い。水銀灯がある高いエリアは開放的だが、一般書架が並んでいるところは天井が低いので、そういう面でもちょっと圧迫感があるのかなと思う。ただ、残念ながら天井を壊すことはできないので、ではその高さや色の中で、どうしたら少しでも明るい雰囲気を持たせていけるか、アイデアを出していくしかないと思っている。
関委員長	この近所で今風の図書館といえば、見附市。今度行って見てほしい。あそこの書架は、高いところもあるが低いところが多いので、入ると明るい。ここは今風ではないから、工夫をしていくしかない。
館長	関東には浦安市立図書館という、一時期とても注目された有名な図書館があるが、文学だけでなく多くの書架が低層で、見通しがいい。ただ、その分収納キャパが低くて入りきらず、私が行った時は、立っている本の上にたくさん横に寝せて入れてあった。図書館人として非常に疑問に思ったが、そうしなければ入らないからそうしていたのだろう。低層を多くすると見通しはよくなるが、そういうデメリットもある。
宮島副委員長	今の話もすごくいい話で、それぞれの図書館の持ち味も大事にしてもらいたい。伝統のある本館は落ち着きがあるし、そうしたことを求めている利用者の年齢層も考える必要がある。今回出されている表もすごく大事で、集計するのが大変だと思うが、私は三条市民の中でどれだけの方が図書館のカードを持っているのか、どれだけの方が登録しているのか、そのカードがどれだけ使われているのか、その数字が知りたい。それを見たことがない。私も実はカードを持っていたが、自分で一般書を借りること

	<p>がほとんどなく、絵本ばかりをつい団体貸出を利用して借りるので、全然使っていない。そういう“死んでいる”カード、更新していないのもう数に入っていないかもしれないが、そういう数字を把握して、リピーターを増やす取り組みにつなげていく。新しい登録者を増やそうとするばかりでなく、すでにカードを持っている人に、有効にフル回転で図書館を使っただけでよいのではないか。カードを持っているからには図書館に興味がある人だと思うので、そういう人をもっと呼び寄せる、素地のある人をさらに呼ぶという工夫もいいのかなど。新しい方を増やすというよりはリブックスタートだと思うので、そうした両輪で地道に育てつつ、カードを持っている人もフル回転してもらおうという取り組みを期待したいと思う。</p>
関委員長	<p>高齢者がほとんどだろう、ここは。</p>
六原委員	<p>私も、三条市の人口に対してどのくらい図書館のカードを持っているのか、子どもに対しても人口全体に対しても、ぜひ資料を見たいと思う。</p>
生涯学習課長	<p>21年度末の登録者数は、本館が28,995人、栄分館が1,621人、下田分館が996人、嵐南公民館分室が879人、漢学の里分室が83人。ただし広域の方も登録できるので、燕・弥彦・田上の方も含んでいる数字だが、合計すると32,569人で、市の人口を10万人とするとだいたい3割になる。</p>
関委員長	<p>大人だけ？</p>
生涯学習課長	<p>32,569人のうち、子どもは4,402人。</p>
宮島副委員長	<p>そういう資料も以前から出ていたか。</p>
館長	<p>指摘いただいた視点で、もっとご覧いただきやすい資料を作りたいと思う。</p>
六原委員	<p>栄分館の担当の方がけっこう代わられる。ずっと同じ人にいてもらわなければ困るということではないのだが、連絡がスムーズにいくとありがたいので、専属でなくてもいいが、できれば「主にこの人が担当」という方がいてもらえるとありがたい。責任者のような形でいてもらえると、話が通じやすいという意見が最近あった。もし担当が決められないのであれば、連絡がうまくつながるようにしていただきたい。</p>
豊岡委員	<p>毎日代わっているのでは？</p>
関委員長	<p>勤務対応だから難しい。</p>
瀧澤	<p>現在全員がシフト制で動いており、分館は朝9時から夜7時まで、1人の者が10時間通しで勤務している。そのため、同じ者が2日連続・3日連続になると負担になるので、何人かが交代で行っている。対策として、本館も栄分館も下田分館も連絡ノートを用いて、きちんと引き継げる体制にしている。</p>
生涯学習課長	<p>先ほど施設の話が出たので付け加えると、例えば洋式トイレが少ないなどいろいろな要望があり、私共も対策をとらなければならないと思っているが、今年度の後半、授乳室を設置したいと思っている。今の市長さんが子育てサービスに力を入れられている中で、公民館に限らずいろいろな施設への授乳室の設置を市民から要望されている。今回その実現として、2階の一角に設置したいと思っている。</p>
丸橋委員	<p>ひとつ希望だが、この図書館は調べものが非常にしにくい。閲覧室は新聞を読んでいる高齢者ばかりで、新聞を広げていて読めない。奥の参考調査室も圧迫感があるし、受験生が2階へ行かずにあそこで勉強していたりする。</p>

館長	そういう方はきちんと誘導している。
丸橋委員	私たちから高校生たちへは言えない。
館長	職員へ遠慮なく言っていただきたい。
丸橋委員	「ここは調べるための部屋」とか、書けばいい。
館長	書いてあるのだが、時間が経つとそういう注意書きも慣れてしまい、風景のように気にとめられなくなってしまう。目立つ形を考えたい。
関委員長	他に何かあるか。
長谷川生涯学習課主査	第2次「三条市子ども読書活動推進計画」の策定について説明
関委員長	<p>あとはよろしいか。</p> <p>次回へ向けてのお願いだが、図書館では余った本や古い本を廃棄して配布しているという話があった。図書館の本には寄贈本が多く、詩集などは鍵がかかったケースに入っているが、そういう管理の仕方も含めて、この1年間にどのような本の寄贈を受けたか、紹介してもらえないか。</p> <p>街を回っていると、ゴミの日に相当本が捨ててある。高い本や貴重な本でも、関係のない人にとってはゴミでもったいない。面倒くさいから捨ててしまえということも結構あると思うので、「図書館でこういうものを受け入れました」ということを「市政だより」等に掲載すれば、寄付してくれるかもしれない。そういう意味で、次の協議会でどんな寄贈があったかを紹介してほしい。もっとも、図書館がそうした本を入れる余地があるかどうかが大変問題だが。</p> <p>では、今日はこれで終わりにする。ご苦労さまでした。</p>